

2023年06月18日

みことばに従う練習

人は教育や経験に基づいて理論や原則を立てます。しかし、そのような理論や原則が、神様と神様を知る知識に強く抵抗するものとなることがあります。

ある人は、「聖書に何と書いてあるかは関係ない。聖書はこう言っているけれど私が思うには……」と言いながら、自分の正しさを主張します。またある人は、自分に都合の良いみ言葉だけを選んで、状況に適用させようとします。また、「神様なら、こうされるべきではありませんか。こうするべきです」と、自分の思うように神様を動かそうとする人もおります。

この世で正しい方は神様しかおられません。「私は正しい。私は間違っていない」という頑なな態度は、いずれ、「私が神様である」という傲慢の極みに至ります。自分が神様の座に着き、是非を判断するようになるのです。そのような人は、自分が間違っているはずがないと主張し、過ちを人のせいにしてしまいます。

このように致命的な過ちを繰り返してしまう私たちを変えられるのは、完全であり、究極である真理のみことばしかありません。

神様を知ることが妨げ、自分を神様とし、自分こそ正しいと思わせるすべての理論を捕らえて従わせることが出来るのは、みことばの力しかないのです。ですから、私たちは絶えずみ言葉の前に出て黙想し、奮闘しながらみことばに従う練習をしなければならないのです。

リビングライフ・コラムより

週報

§ 今年の教会テーマ 「恵みあふれる教会」

§ 今年の主題聖句

「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。」ヨハネ1章16節

〒513-0035 鈴鹿市矢橋町 471-2
宗教法人 日本ネクスト・タウンズ・クルセード
鈴鹿キリスト福音教会
059-383-5145(教会)
080-3706-8433(牧師)

今週の礼拝メッセージ 使徒 12:1～25
主 題 「神様こそ、すべてを支配されるお方」

ペンテコステの日に聖霊の降臨によって誕生した初代教会は、その後目覚ましい成長を遂げて発展していきました。しかし、熱心なユダヤ教信者たちにとっては、キリスト教はユダヤ教の異端信仰と思われ、彼らによる反対、迫害も絶えませんでした。使徒 12 章に記録されている事はそのような中で起こった出来事です。

1. キリスト信仰と苦難について

① 人生と苦難について

② 信仰生活にも様々な形で苦難に出会う

* 21 世紀に入り、迫害はますます激しくなっている。

Ⅱテモ 3:12 キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。

2. 神は祈りという強力な武器を教会と信者に与えられました

* 祈りの中で誕生した初代教会は、祈りつつ困難を乗り越えて前進していった。

サタンは信者が祈ることを一番恐れ嫌っている

「祈る教会は行き詰まることがない。祈る信者は倒れること
がない」

3. 本当の権威を持っておられるのは神様です

* ヘロデ王は「自分には絶対的な権威があり、なんでも自分の思いのままにできる」ととんでもない誤解をしていたが、彼が殺そうとしていたペテロの命は主によって守られ、自らは得意絶頂の中で、主のみ使いに打たれ、あっけなく息絶えて死んだ。

ルカ 12:4 わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、その後はもう何もできない者たちを恐れてはいけません。12:5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。

黙示録「恐れることはない。わたしは初めであり、終わりであり、1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、世々限りなく生きている。また、死とよみの鍵を持っている。

◎ このメッセージから

* 人間とはどういう者でしょうか。

* 神はどういうお方でしょうか。

【報 告】

※ 毎週木曜夜 7 時 45 分からの「ハイナイト祈り会と聖書の学び」をしばらく休みます。

※ 19 日、月曜日は「赤ちゃんカフェ」が、23 日金曜日は「つながるカフェ」がそれぞれ一階のカフェルームでもたれます。

【メモ】